

## 第6回守山市総合計画審議会 議事録

開催日時：令和7年11月14日(金)午後5時30分～午後7時20分

開催場所：守山市役所2階防災会議室

出席者：

(委員) 辻田素子、杉岡秀紀、中川郁男、大崎裕士、上村瑠実、山本なお栄、石上僚、  
岩崎優希、北村妙子、高津真一、小森慎也、佐子友彦、根木山恒平、村田和哉、  
桃谷香葉、山崎いずみ

(守山市等) 森中市長、福井副市長

総合政策部 長谷川部長、稻田次長

総合政策部企画政策課 伴課長、田中参事、大寄係長、斎藤主事

株式会社地域未来研究所 田渕技術顧問、貞松主任研究員

傍聴 3名

### 1 開会

### 2 市長挨拶

### 3 会長挨拶

### 4 議題

#### (1) 守山市長期ビジョン2035(最終案)について(意見交換)

会長	議題1 守山市長期ビジョン2035(最終案)について、ご意見、ご質問等がありましたらお願ひします。
杉岡委員	表紙も含めて、わくわくするものが出来上がったと感じています。 様々なまちの総合計画の策定に関わらせていただいているので、その観点から3つ、ご質問させていただきます。 1つ目は、パブリックコメントについてです。説明会の参加者が8名、パブコメ意見提出者が4名、意見は31件ということで、人口約8万6千人のまちで0.01%、1万人に1人からしか意見が出なかったのは、非常に残念だと考えます。資料編の中で、市民ワークショップには参加者数が記載されていますが、パブリックコメントは参加者の記載がありません。良くも悪くも関心をもつてもらうために、敢えて記載してもよいのではないかと考えました。 市役所としても周知を頑張っていただいたはずですので、市民の皆さんにも、もっと関心を持ってほしいと考えます。 計画は、出来て終わりではなく、出来てからがスタートです。絵に描いた餅に

	<p>ならないように、市民の皆さんのお計画だということがわかるように、今後、PRに力を入れ、市民に広めてほしいと思います。</p> <p>PRの本当の意味はパブリックリレーションズであり、関係性をどう構築するかということです。行政だけでなく、審議会委員の皆さんにも是非、ビジョンを広めていただくようお願い申し上げます。</p> <p>2つ目として、今回、「総合計画」から「長期ビジョン」に名称が変わりました。「総合計画」は策定義務ではなく各自治体の判断で作ることになったため、各自治体でも様々な名称で計画が策定されており、市民の皆さんにとっても分かりやすくなつたと考えます。</p> <p>一方で、本審議会の名称は、総合計画審議会のままでありますので、5年後の計画改定時には、審議会の名称の変更や条例の書き換えが必要ではないかと思われます。そのあたりも検討いただければと思います。</p> <p>3つ目は、今回のビジョンの特徴として、基本構想のみからなる構成で分野ごとの方向性が書かれていますが、第5次総合計画との一番の違いはKPIを設定しなかつたことです。</p> <p>分野別計画で数値目標を設定しているので、ビジョンは10年間の長期的計画ということで、数値目標は敢えて入れていないという理解でよいでしょうか。</p>
事務局	<p>まず1つ目のパブリックコメント説明会の参加者等については、ビジョンに人数を追記させていただきます。</p> <p>また、市民へのPRについても、今後、力を入れていきたいと考えています。次に2つ目の審議会の名称ですが、条例の名称まで変更するかについては、府内で検討させていただきます。</p> <p>最後に3つ目の、KPIについてですが、時代が大きく変化する中で、長期ビジョンでは大きな方向性を示し、具体的な施策は分野別計画に委ねるということとしており、KPIについても分野別計画で設定しますので、そこで進捗管理を行う形にしております。</p>
会長	<p>そもそもパブリックコメント説明会の参加者はなぜ合計8名だったのでしょうか。</p> <p>ワークショップに関しては、多くの参加者がいましたが、その方たちは参加されなかつたのでしょうか。</p>
事務局	<p>ワークショップの参加者には案内を出しましたが、結果的に参加いただけませんでした。</p> <p>策定したビジョンについては、多くの市民に知ってもらえるように、周知啓発を図ってまいりたいと考えております。</p>
中川委員	<p>市が参加者を募る説明会では人が集まらないと思いますので、各学区の自治会長会で説明いただき、地域の方には、自治会から説明する形がいいのではないかと思います。</p>
山本委員	<p>市民が考える「10年後のまち」の市民ワークショップの結果の中に、「安心安</p>

	<p>全」とありますが、他の部分は「安全安心」になっているので、統一した方がいいかと思います。</p> <p>また、「攻山・守山」という文言が書かれていますが、どういう意味か分からなかつたので少し気になりました。</p>
事務局	<p>「攻山・守山」の文言はワークショップの中での意見であり、守山の良いところを守っていくために攻めることが重要という意味で、ビジョンの将来像にもつながる意見をいただいたところです。</p> <p>「安心安全」もワークショップでの意見をそのまま記載しています。</p>
大崎委員	<p>今までの会議で既に意見を言い尽くしていますので、個人的にはまとまって分かりやすい計画になったと思います。</p> <p>今回の審議会では、一言一句を確認するというよりも、今後の市民への周知等という視点で議論する方がいいのではないかと思います。</p>
山崎委員	<p>パブリックコメントでは、4人からしか意見がなかったということですが、守山市民は、守山市は平和でうまくいっているので、行政に任せておけば大丈夫と安心しているのではないかと思いました。</p> <p>そこで、杉岡委員にお聞きしたいのは、市民が自分ごととして関心を持つために、うまくいっている他の地域の事例があれば、教えていただきたいということです。</p> <p>また、長期ビジョンの中に、「市民一人ひとりの計画ですよ」というファーストメッセージがあると、私たち一人ひとりが自分ごととして感じられるのではないかと思いました。</p>
杉岡委員	<p>投票率のように、平和であるがゆえに選挙に行かないということと同じようなことが起きているのではないかと思います。</p> <p>そのままでいいかというと、そうではありません。</p> <p>広く住民の意見を聴く方法について、事例をいくつかご紹介したいと思います。</p> <p>1例目は、与謝野町（京都府、人口約1万9千人）です。PTAや様々な集まりなど、住民が集まっているところに行政職員が出向き、町の約1割に当たる2,000人の参加を得る中で、総合計画を策定しました。関心がない方が多いのはどこも同じですが、人が集まっているところに出向き、聴きに行くというスタイルを徹底したことで、市民が総合計画について何か聞いたことがあるというようになり、その方法は今でも続いています。</p> <p>2例目は、丹波市（兵庫県、人口約6万人）です。子どもたちにターゲットを絞り、学校の授業で使ってもらえる概要版を作成しました。また、子どもたちにまちの将来の絵を描いてもらい、本編の中に何百人の子どもたちの絵を盛り込みました。そうすることで、子どもたちの保護者も見ることになり、自分たちの子どもの絵が掲載されていると、捨てたくないと思う仕掛けをつくりました。</p>

	守山市もPRについて、もう少し攻めた取組をしてもいいではないかと、個人的には考えます。
市長	<p>市民のみなさんが自己ごとだと思ってもらえることが大切だと思いますので、最初のところにメッセージ等でしっかりと伝えるなど、方法を検討したいと思います。</p> <p>また、どこにどう入れるかについては、お任せいただき、市で考えたいと思います。</p>
村田委員	<p>若い世代にはSNSをいかに活用していくかが大事ですが、この点に関しては、行政は弱いところです。</p> <p>守山市のXを見ている人やInstagramの投稿に対する「いいね」は、少ない状況です。</p> <p>それはやむを得ないと考えますが、例えば、今から3~5年経った時に、将来像に掲げているように、「想いがかなった」というインタビューを長期的に撮影し、InstagramやTikTokを駆使しながら発信していくことが重要だと考えます。夢や想いが守山でかなうなら、みんなが挑戦しようとか勇気を出してやってみようというようになるので、メディア戦略やSNS戦略も一緒に考えていくべきだと思います。</p>
桃谷委員	<p>子育てをしている母親は、毎日が忙しく、興味があったとしても目を向ける暇がないというのが実状です。</p> <p>問題意識を持ち活動している母親もいますが、その方たちに、私が総合計画策定の審議会に参加していることを話しても、総合計画というものを知らない方がほとんどです。</p> <p>杉岡委員が他の自治体の事例を紹介されましたが、母親や子育て世代が集まる場所に行政職員が出かけて、話を聞くともっと意見が出てくると思います。今後、是非そういったこともやっていただきたいと思います。</p>
市長	<p>ご意見いただいたように、行政がもっと現場に出て行き、意見を聞くことは必要だと思いますので、今後、計画を策定する時の参考にしたいと思います。</p> <p>また、長期ビジョンの今後のアナウンスの方法についても、いただいた意見を参考にどのような形で行えるか考えていくべきだと思います。</p>
高津委員	非常にまとまった計画になったと思いますが、第5次総合計画の総括とそれを受け、長期ビジョンがどのように変わったかが分かると更によいと思います。
事務局	<p>第5次総合計画の総括をビジョンに直接書き込むことは難しいですが、今後周知していくなかで、前計画の成果を受けて、盛り込んだ新たな視点等を市民にしっかりとPRしてきたいと思います。</p> <p>また、分野別政策については、例えば、地域活動支援や子どもの居場所づくりなど、現状の課題を踏まえて新たに盛り込んでいる点がありますので、今後、市民に説明する際には、新たに変更したところをわかりやすく説明していき</p>

	たいと考えます。
小森委員	<p>良い計画ができたと思っていますので、この先、市民にどう周知していくかが重要だと考えます。</p> <p>文化会館を運営する中で、地域課題に文化会館がどう寄り添っていけるかを考え、事業計画を進めています。今後は、事業方針の中に長期ビジョンの将来像を盛り込み、同時にPRしていけるような仕組みをつくっていきたいと考えています。</p> <p>委員のみなさんがそれぞれの立場で、長期ビジョンを発信していただければ幸いです。</p>
佐子委員	<p>先ほど質問があったように、「攻山・守山」「凸凹のまま暮らしやすいまち」など、この長期ビジョンの中だけで使われている特徴的な言葉についても、用語解説があるといいのではと思います。</p>
根木山委員	<p>長期ビジョンは大きな方向性を示し、今後10年間の中で起こる変化に臨機応変に対応するという方針は、優れた構想だと考えます。</p> <p>新しい住民の方も地域活動に参加していただく中で、市民がこのビジョンを自分ごととして捉えていただければと思います。</p> <p>私は、活動の中で子育て世代に関わることが多いため、守山市内で子育て環境を高めていくお手伝いを、NPOの立場で行っていきたいと考えています。</p>
桃谷委員	<p>前回発言した食育のことも盛り込んでいただいており、議論を重ねるなかで、よい計画になったと思います。</p>
上村委員	<p>市民が考える10年後のまちの中に、中学生アンケートの結果が掲載されていますが、守山には県立守山中学校・高校や立命館守山中学校・高校があり、市外から通学する子どもたちがいます。今後、外部からみた守山の良さなどについて、意見を聞くこともいいと思いました。</p>
山本委員	<p>多文化共生について、ご意見を反映していただき、ありがとうございます。</p> <p>また、地域福祉の部分で、地域で見守りをしていくということが記載されていますが、見守るだけでは不十分だと考えます。</p> <p>分野別計画の中で、具体的な取組をしっかりと盛り込んでいただきたいと思います。</p>
石上委員	<p>長期ビジョンは、今後の運用方法が非常に重要だと考えます。</p> <p>パブリックコメントの意見提出が少ない件については、山崎委員の発言と同様に、守山市はまちとして一定の満足度を備えているがゆえに、市民は大きな課題を感じていないということだと思われます。</p> <p>また、今回の審議会委員の選定も、従来にない攻めた選定をしていただいたと思います。委員それぞれが個々に力を持っているので、長期ビジョンを委員それぞれの関係者に伝え、実践していくことが重要だと感じました。</p> <p>先日、守山南中学校の授業で、市内で活躍している方数十名にゲストコーチとしてお越しいただきました。その際、市内で守山に誇りを持って活動している</p>

	<p>大人がこれほど多くいることに感動したという生徒たちの感想がありました。</p> <p>先生方は県内で異動されるため、守山のことを十分にご存じない方も多く、また、先生方は非常に多忙であることから、地域全体で協力して子どもたちを応援する必要があると思います。</p> <p>子どもたちが10年後に大人になり、一度守山を出たとしても、帰ってきて何かしたいと思えるまちにしていければいいなと思いました。</p>
山崎委員	<p>用語集にある六次産業化の説明について、1次産業×2次産業×3次産業で6次産業という意味も付け加えていただければ、興味を持つ人も増えるのではないかと思います。</p> <p>私自身、大阪から守山に移り住み、農業の関係で農政課にお世話になったこともあります。人生でこれほど市役所に足を運んだことは初めてでした。</p> <p>市民の方も関心がないわけではありませんが、普段市役所に足を運ぶことはほとんどないという方が大多数だと思われます。</p> <p>住んでいるまちでもどこか他人事という方も多いので、どう関心を持つてもらうかが、守山だけではなく、全国的な課題だと考えます。</p> <p>あらゆる機会における発信などで、若い世代に関心を持ってもらえる機会を創出することが重要だと思います。</p> <p>私自身も農業を頑張りつつ、今後も機会があればまちづくりに関わらせていただきたいと考えています。</p>
北村委員	<p>一教員として審議会に参加させていただき、子どもたちに関わる立場でまちづくりを考えることができた貴重な機会をいただきました。</p> <p>将来像の「私の『想い』がかなうまち」について、まず想いを持つこと、そしてそれを発信することが大切であり、子どもたちの声をしっかりと聴くことが重要だと考えます。</p> <p>また、子どもたちの居場所や、職員同士の働きやすさという点を盛り込んでいただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>子どもたちと同僚の教員をつなぐことが、私の立場での役割なのだと改めて認識しました。</p> <p>子どもたちについても、すぐに成果が出るわけではないかもしれません、種をまいておかなければいけないと日々感じています。</p> <p>例えば、学校に行きにくい子どもが、給食メニューを見ることで学校に行くきっかけになり、友達と話すきっかけになるかもしれません。そういう小さなきっかけが色々なところに存在するため、この機会を活かし、今後も頑張っていきたいと考えています。</p>
杉岡委員	<p>今後の情報発信のヒントになることをいくつかご紹介させていただきます。</p> <p>生駒市は、人口11万人のベッドタウンですが、「いこまち宣伝部」という市民PRチームを組織し、市民が地域の取材を行い市公式SNSでPRしています。</p>

	<p>Facebook で 7 千人、Instagram で 4 千人のフォロワーです。市民が発信することで当事者意識を持つようになるため、こういった切り口も有効です。</p> <p>次に、神戸市の事例ですが、政令都市で人口規模も異なりますが、「1000SMiLE」という動画を活用したプロモーションを展開していました。1,000 人の市民が想いを語る動画を発信するというものです。ちなみに神戸市の YouTube チャンネルの登録者数は 20 万人で、全国 1 位です。</p> <p>また、豊岡市は、人口 7 万人ほどのまちですが、ジェンダーギャップに力を入れており、マンガを活用した情報発信を行っています。文字ばかりだと読んでもらうまでのハードルが高いですが、マンガや動画など、工夫を凝らした発信を行っています。</p> <p>今後は、守山市でも是非、情報発信に注力していただきたいと考えます。</p> <p>また、分野別計画一覧のページから、二次元コードで各計画に直接アクセスできる仕掛けがあれば、より利便性の高いビジョンになると思われます。</p>
副市長	<p>行政で働き 40 年以上経ちますが、市民への PR については、ずっと悩んできたところです。</p> <p>本日いただいた意見を参考にさせていただき、今後の取り組みを検討していきたいと思います。</p>
市長	<p>委員の皆様におかれましては、それぞれの立場で様々な意見をいただき、私自身も改めて気づくところが多くありました。</p> <p>委員の皆様におかれましては、今後も引き続きまちづくりに関わっていただき、一緒にまちづくりを進めていただきたいと思います。</p>
会長	それでは「守山市長期ビジョン 2035」最終案の審議については、以上とさせていただきます。以上で本日の審議事項は終了いたしました。

## 5 答申

## 6 閉会